

長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行NO	NO. 64	報告者	西原京子
年月日	2009年06月07日(日・濃霧)	2万5千	巻機山
山名	越後・巻機山(1967m)		
体力度 = 3・普通 技術度 = 3・普通 藪漕度 = ない 道標 = ある トイレ = 避難小屋 展望度 = よい(晴れば) 三角点名 = ない 等級 = ない			
霧はどこまでも深かった			
コース とタイム	起床4:30 - 朝食5:00 - 「やまご」発5:45 - 桜坂登山口発6:10 - 5合目展望台6:49 - 物見平8:00 - ニセ巻機8:53 - 避難小屋9:00 - 巻機山9:40 - 避難小屋10:30~11:10 - 桜坂駐車場13:26(以上先発隊タイム)・・・後発14:00 - 「やまご」14:15~15:45 - 下土狩21:00		
標高差	上り = 桜坂登山口約690m~巻機山1967m = 約1237m 下り = 同上		
参加者	CL 後藤、村上美、近森、鈴木恵、河合 SL 井上、石和、世古、土屋、西原、河野、峰田 SL 渡辺、増田真、永尾、原田、中村 SL 鈴木仁、増田吉、佐々木、村上充 = 以上21名		

今回、さわやかハイキング2009年生としてはじめて山行に参加させてもらった。さわやかハイキングには、主催する後藤リーダーと知り合った事がきっかけで入会することになった。

後藤さんとの縁は2年ほど前の冬、西伊豆山稜登山中に登山道で話をした事から始まる。ナンパしたかナンパされたかについては意見の分かれるところだが、62歳の後藤さんが28歳(?)の私をナンパしたとなると犯罪になりかねないので、ここは一步ゆずって、私がナンパした事にしておきたいと思う。

その後、さわやかハイキングの報告書を見て、計画が素晴らしく充実、クラブ名は『さわやかハイキング』だが、内容は『さわやかアルパインクラブ』である事がわかり、どうしても入会したくなかった次第である。

6月6日(土)

巻機山は標高差1200メートル、7~8時間の行程ゆえ、登山口近くの民宿『やまご』に前泊する。『やまご』のある清水集落は巻機山の裾野にひっそりと佇み、今も昔の面影を残す貴重な集落である。

水が豊富で山や川の幸が多く、食材には事欠かないのであろう。民宿の「山の幸フルコース」は都会の人間にとっては、この上ない贅沢な食卓であった。

6月7日(日)

雨雲が夜のうちに流れていってしまう事を期待したが、朝、目が覚めると一面の霧。天気は回復しそうもない。



民宿「やまご」(山子?)



6:00 巻機山登山口、出発。夜半に降った雨で登山道はぬかるみ、滑りやすい。朝霧濃く、メンバーの列が時折霞んで見える中、先頭に行く後藤リーダーの姿だけはくっきりと浮かびあがって見える。赤いトレパンに黄色のシャツ、唐辛子にマスタードを塗りつけたようなファッションのせいだ。お世辞にも垢抜けしているとは言いがたいが、今日の濃霧を想定して意図的に奇抜原色セットを身につけたのだとしたら、リーダーとしてはたいしたものだと思う。(笑)

6:48 5合目 1128メートル 休憩。

7:28 6合目展望台 霧に覆われて展望はない。しかし、登山道には様々な花が咲き、それらはピンと背筋を伸ばし花びらを一杯に広げ、雨に新たな活力を貰っているようにも見える。自然は、太陽も雨も雪もすべてのものを恵みとして生命力を生む。そう思うと雨の山行も味わい深い。

8:00 物見平 1564メートル 後藤リーダーは遅れがちになった登山初心者指導のため、後続部隊につく。先発隊は1500メートル付近から井上サブリーダーについて一定のテンポを保ちながら進む。

8:35 8合目 樹林帯から笹原へ。相変わらず霧雨だが展望が開けた分、明るい。



雨っばい朝

8:53 9合目 ニセ巻機の道標。ここを過ぎた辺りから木道となるが、これが滑りやすく、おまけに壊れかかり傾斜していて歩きにくい事この上ない。

9:00 避難小屋到着。避難小屋は二階建てで新しく、トイレはバイオトイレ。用を足した後に便器の横にある自転車をこいで微生物を分解する仕組みである。

「全員終わった後に最後の人がかげば良い。」とか「前にペダルをこくと微生物分解だが、後ろにこくと逆流だ。」とかはじめて見る仕組みに皆、興味シンシン。大人が山に入って童心にかえる。素敵な事である。

9:15 避難小屋出発。巻機山山頂までは避難小屋から約20分ほどの道のりである。シャーベット状の残雪を踏んで登っていく。突然、霧の中、池塘に咲く水芭蕉が浮かび上がった。一同歓声！本日のハイライトである。雨でも霧でも展望がなくてもドロドロの登山道でも、この水芭蕉に出会えた喜びが、すべてを楽しみに変える。だから山は素晴らしい。

9:40 巻機山山頂到着。1967m 濃霧。おまけに小雨が振り出した。巻機山山頂からは東西に割引岳、牛ヶ岳という2つのピークがあるが、天候不良のためピストンの計画を中止。



避難小屋



小屋のバイオトイレ
使用后、自転車の
ペダルを前後に
数回漕ぐ



20分ほど遅れて後藤リーダーが後続部隊を伴って山頂に上がってきた。登山初心者にとって標高差1200メートルはきつかったらう。後藤リーダーが付き添って彼女を登らせてあげた。山頂で握手をしている。ベテラン山屋の中には初心者の面倒を見てくれない人も多いのに、この後藤リーダーには敬服である。彼女は良いリーダーを得た。きっと山が好きになるに違いないと思う。

10:00 2つのピークを諦めて避難小屋へ下山と言う事になったが、井上さんが山頂道標部分から10分ほど行ったところに最高点があると言う。ここまで来たのだから最高点を踏みたいとの希望者も数名いる。



ハクサンコザクラ

バイカオウレン(ミツバ)



避難小屋で昼食

「やまご」のお弁当
トマト、おしんこつきで
500 -
ムスビが大きく食べ切れなかつた



霧で視界不良の中、「最高点はある。ない。」と議論が始まったが「道標に 1967m と書いてあるんだから、ここが山頂だろうよ。」と言う後藤リーダーのアバウトな答えに議論はあっけなく終止符を打つ。下山後、緻密な調査の結果、最高点は道標から 10 分ほどの所に存在する事が判明した。

10：30 避難小屋にて昼食。

11：10 避難小屋を出て下山。登ってきた井戸尾根を下る。

13：26 登山口に到着。ペースはかなり速い。皆、ドロドロで駐車場に降りてきた。駐車場には薄日がさしていたが、巻機山の山頂付近には雲がかかっている。山頂はきっとまだ霧と小雨の中だろう。そして、あの水芭蕉は登山者の去った後も尚、精一杯咲いているにちがいない。



下山後の「やまご」のお接待
真中は、マタタビの芽



「やまご」の大ババさん
小野塚サクさん（88歳）！
いつまでもお元気に！



下山後のひととき

その他（この項・後藤）

1. 登山口駐車場は有料。普通車 1 日 5 0 0 - 。管理人がバイクで来て立っていた。
2. 花は全く期待はずれだった。
3. 「やまご」の風呂は狭く、洗い場は 2 名のみ。
4. 「やまご」のビールは大瓶で 5 0 0 。非常に安い。下山後の風呂は無料サービス。
5. バス運転手の部屋がなく、近くの民宿に宿泊した。
6. 結局、「やまご」は日本酒 2 本（高清水・八海山）サービスしてくれた。
余りに申し訳なく、「新茶」を皆のカンパで送る。
7. 帰りの関越は一部渋滞があった。
8. 帰静後、天気図を精査したら、新潟沖日本海に低気圧があった。
9. 新築された避難小屋は大きく、清潔で快適。
10. 初参加の何名かの方は、よく努力した。

